

患者さんの立場から見た

造血幹細胞移植

6/25

(土) 開催報告

10時00分 ~ 11時40分

開催方法: zoomによるオンライン開催

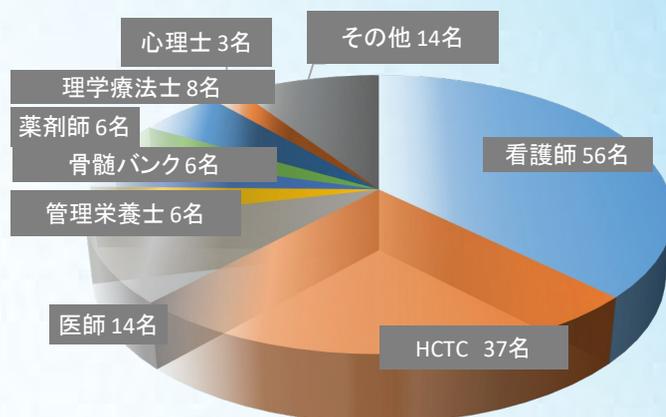
参加者: 150名 参加施設: 54施設

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
オンライン開催となりましたがブロックを超えて
多数の方々にご参加していただくことができました。

参加施設



参加職種



血液内科医が米国でAMLと診断され、日本で移植を受けて学んだこと ～無症状でAML?あなたならどうする～

香川大学医学部附属病院 血液内科 藤田 晴之先生

米国でAMLと診断され、日本で移植を受けられた経験を基に、米国と日本の医療の違いや、診断を受けてから入院加療、移植治療、そして退院から復職までの経過の中で感じた思いをお話して下さいました。

診断を受けて、様々な不安の中で求めた支援は、「とにかく傾聴。そして気持ちに寄り添い、一緒になって何かできることを見つけていく。」それは、家族とは異なる立場に立つ第三者である私達に出来ることの一つであり、「寄り添う思いがあれば、医療スタッフとしての経験年数は関係ない。」と教えて下さいました。また、実現可能な目標を患者さんと一緒に考えることで、目標達成に向けてすべき事が明確になり、患者さんのやる気に繋がる、目標を持つことの重要性もお話下さり、ホワイトボードシートを活用した香川大学病院の取り組みもご紹介いただきました。

米国と日本の医療という興味深いお話と、患者さんの目線で感じた「医療はこころ」について、大変貴重なお話を伺うことができました。

造血細胞移植における妊孕性温存の意思決定支援

成田赤十字病院 医療社会事業課がん相談員/造血移植コーディネーター

小林 千夏先生

(臨床心理士/公認心理師/がん・生殖医療専門心理士)

移植サバイバーでもある小林先生からは、多くの経験を基に妊孕性温存の実際について、そして事例紹介から意思決定とその後の継続的な支援についてのお話を伺いました。

妊孕性温存の実際については詳細且つ具体的にお話下さり、支援方法のイメージを掴むことができました。意思決定支援においては、迷いを可視化しながら一緒に整理する方法として、メリット・デメリットを記載するシートをご紹介していただいたり、情報提供をおこなうタイミングや他施設とスムーズに連携を取ることの必要性、相談しやすい体制作りについてのお話を伺いました。

妊孕性の問題はとても難しい関わりの一つですが、その後の人生にも大きく影響を及ぼす問題ですので、患者さんやご家族にしっかりと寄り添い一緒に考えていくことの重要性を学ぶことができました。

YouTuber にゅーいんさん (竹内 蔵之介さん) からのメッセージ

移植サバイバーであり、YouTuberとして活動されているにゅーいんさんから、精神面で重要な役割をもっている〈環境〉について(家族との面会や治療を受ける環境など)のメッセージをいただき、患者さんが抱えている思いを知ることができました。



今回のセミナーを通して、患者さんは抱えている思いの僅かしか言えていないと感じました。

患者さんと同じ目線で、なるべく多くのことを引き出しながら、患者さんの思っていることを実現できる医療を心掛けていきたいと思えます。

講師を務めていただいた先生方、
メッセージをいただいたにゅーいんさん、
参加していただいた皆様、ありがとうございました。

次回のセミナーも、ご都合がよろしければご参加いただけますと幸いです。

造血幹細胞移植推進拠点病院
愛媛県立中央病院

